

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4076000100
法人名	有限会社 ワイアンドケイ
事業所名	グループホーム つつじの丘
所在地	福岡県嘉麻市牛隈2510番98号 電話 0948-57-4150

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成20年2月4日	評価確定日	平成20年3月6日

【情報提供項目より】(平成20年 1月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11月 1 日		
ユニット数	2	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	1ヶ月30000円			

(4) 利用者の概要(1月 18 日現在)

登録人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	5	要介護2	1			
要介護3	2	要介護4	1			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	85 歳	最低	77歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会保険稲築病院 吉原医院 あとの歯科医院 三愛病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームつつじの丘は、風光明媚な小高い丘の上にある新興住宅地の一角に位置している。理念である「安心して生活できる、笑顔と真心で共に楽しく過ごせる環境づくり」を反映した介護計画に沿って、日々の生活を支援している。ケアを向上したいと他のグループホームと情報交換をしたり、グループホーム協議会が主催する研修会等に職員が交代で勤務時間内に参加している。また、運営者は入居者との馴染みの関係作りの重要性を充分理解しており、働きやすい職場づくりとして、職場と家庭を両立するために残業がない様に配慮することで、出産後再就職した職員もいる。地域資源を活用して映画会の参加や図書館などに積極的に外出しているが、運営者は地域住民との交流が今後のホームの役割であるとの認識から、近隣の保育園の運動会見学に出かけたり、ホーム主催の夏祭りをご案内するなど、柔軟に対応している。まだ空き地の目立つ新興住宅地であり、地区自治会発足など近隣に対するホームの働きかけに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の課題は、改善計画シートを作成し優先順位をつけて、理念の啓発や落ち着いて過ごせる環境づくり、情報の共有、介護計画は職員の意見を反映し、本人や家族の意向に沿って作成するなど職員全体で取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義について運営者や管理者は理解しているが、職員全員による自己評価の取り組みは出来ていない。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議の実施要領や議事録を整備し、前年度の外部評価についても報告が行われている。運営推進会議の構成員に地域包括支援センター職員や病院ソーシャルワーカーが積極的に参加しているが、家族や地域住民が参加していない会議もある。2ヶ月ごとの定期的な開催をしていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	重要事項説明書に事業所の意見・苦情窓口を明記しているが、公的機関の意見・苦情窓口の明記や意見箱の設置はしていない。家族会を発足したり、運営推進会議に家族の参加を呼びかけているが、参加や意見が少ない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	新興住宅地で自治会がまだ出来ていないが、住民の声かけで地域の保育所の運動会の見学に出かけたり、秋祭りに参加したりしている。ホーム主催の夏祭りに地域住民の参加を呼びかけており、相互交流が行われている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心して生活できる笑顔とまごころで共に楽しく過ごせる環境づくり」を理念とし、ホームに掲示している。ホームの倫理綱領に地域密着型としての役割を明記している。	○	これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した理念を追加し、地域との関係性強化を図られてはいかがでしょうか。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングで、管理者は職員に理念を活かして入居者を尊重したかかわり方等呼びかけている。職員は長期、短期目標に理念を活かせるように具体的なサービスの提言を行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新興住宅地で自治会がまだ出来ていない。地域の保育園の運動会の見学にでかけたり、秋祭りに参加したり、ホーム主催の夏祭りに近隣住民の参加がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について運営者や管理者は理解しているが、職員全員による自己評価の取り組みは出来ていない。前回の外部評価の改善項目については全員で取り組んでいる。	○	職員は、外部評価を日ごろのケアを見直す良い機会ととらえているので、評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組まれるようお願いしたい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の実施要領や議事録を整備し、前年度の外部評価についても報告が行われている。運営推進会議の構成員に地域包括支援センター職員や病院ソーシャルワーカーが積極的に参加しているが、家族や地域住民が参加していない会議もある。2ヶ月ごとの定期的な開催をしていない。	○	会議の中で質問や意見等を受け、双方向的な会議になるように運営推進会議のメンバーに地域の代表や民生委員の参加をお願いされてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営推進会議で地域包括支援センター職員と連携を取るようしている。また、市担当者とも外部評価の内容を報告することで、連携を取っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	研修に参加しているが、制度等のパンフレットの整備はなく入居者や家族に説明を行っていない。	○	パンフレットの整備を行い、入居の早い段階から入居者の権利擁護が行われていることが伝わるよう、制度等を説明し、その記録の整備をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問時や2ヶ月ごとに発行している「つつじだより」で入居者の暮らしぶりやホームの行事を伝えている。入居者の健康状態については、定期健康診断を行い、家族訪問時に説明し、記録も整備されている。金銭の管理については、預金通帳に細かく記載されているが随時の出納は記録していない。	○	預かり金が預金通帳の記入で管理されていますが、入居者ごとの金銭出納簿を作成し、定期的に職員印や家族の署名や確認印をいただくようお願いしたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所の意見・苦情窓口を明記しているが、公的機関の意見・苦情窓口の明記や意見箱の設置はしていない。家族会を発足したり、運営推進会議に家族の参加を呼びかけているが、参加や意見が少ない。	○	重要事項説明書に意見や不満、苦情などが表しやすいように、公的機関の苦情対応窓口の明記をお願いしたい。運営推進会議の質の確保、家族会の自主運営のためにも、家族のどなたかに代表をお願いしてみたいはかがでしょうか。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独で開設しているため、異動はない。運営者は、馴染みの職員が対応することが大切であると十分に理解している。子育て等で、やむなく離職した職員が就労時間の配慮で復職するなど、離職も少なくなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	採用は年齢や性別の制限はない。ハローワークを通じて行っており、雇用契約書が取り交わされている。就業規則も整備され、有給休暇の取得や健康診断も行われている。職場と家庭を両立するために残業がない様に配慮しており、出産後再就職してくる職員もいる。休憩室も設置し、交代で昼休みを取るようになっている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	身体拘束防止の指針を契約書に明記し、事業所内に掲示している。身体拘束防止マニュアル及びやむを得ず抑制する場合のマニュアルも整備している。人権学習の研修会に参加している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画をたて、職員は交代で勤務時間内に研修に参加している。管理者が職員の相談に応じており、行政や病院ソーシャルワーカーなどに制度の理解や指導などを聞いたりしている。設立当初からのスーパーバイザーにアドバイスをもらっている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加盟している。他のホームと情報交換を行ったりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院先から直接入居される方が多いため、関係作りができないままに利用を開始するケースがあるが、病院職員や家族から、これまでの経緯等の情報をできる限り収集し、安心が得られるように支援している。場合によっては、家族にホームに来ていただくなどの協力をお願いすることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が表現できない不安や苦しみを日常の言動から把握し、職員全員で共有して分かち合う関係作りに留意している。職員は入居者から「早く帰らないと子供が心配するよ。」と労ってもらうことで、共に支えあいながら穏やかに生活していると感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式で、一人ひとりの職歴や生活歴、生活リズムや意向を細やかにアセスメントし、全職員で共有している。居室の掃除や食事作り、塗り絵等、できることや好きなことをしていただき、週間スケジュールをたてて外出する機会も持つようになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに入居者の受け持ちを決め、入居者の変化に気づいた時点で、介護支援専門員に報告し、介護計画の変更を活用しており、記録も整備されている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しや入退院時の見直しなど行われている。見直した計画は家族に説明し了承を得ている。見直しの際は電話などで家族と話し合っており、記録も整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて、受診に付き添ったり、図書館へ図書の貸し出しに出かけたり、映画上映会に出かけたりしている。入居者の里帰りや墓参りも個別に実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の受診に同行し、結果を家族に報告した記録が整備されている。協力医療機関でない場合の受診はなるべく家族に同行してもらうようにしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状の利用者で終末期を検討したことがないため、利用者が重度化した場合や終末期のあり方に関して家族や主治医と話し合ったり、指針を設けたことはない。	○	重度化した場合や終末期のあり方の指針の整備をお願いしたい。入居の早い段階で入居者や家族の意向を確認し、また随時入居者や家族、主治医と検討し、その記録の整備をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の人権に配慮し接している。契約書に利用者の権利として差別を受けない権利を謳っており、個人情報の保護に関する基本方針を玄関に掲示し、家族に送付している。	○	個人情報の利用目的を明記した重要事項説明書等の書面に同意のための署名捺印欄を設け、透明性を確保されてはどうか。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や思いに配慮しながら好きなこと、できることを提案している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、後片付けなど能力や体調に応じて一緒に行っている。毎食職員と一緒に食事を楽しみ、味付けや調理のことで話しが弾む。ファミリーレストランに外食に行ったり、少人数で喫茶店に出かけたりしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎朝9時から、入居者の希望にあわせて行っている。現在希望者がいないため夜間は行っていない。入浴拒否者に対しては、無理強いをせず、コミュニケーションを図りながら入浴できる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞を毎日読む習慣の入居者は自分の新聞を購読する等、一人ひとりの今までの暮らしの継続を支援している。インターネットで塗り絵の原画を取り寄せたり、気晴らしの買物や100円ショップに出かけたり、映画鑑賞などの外出を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間の行事計画があり、近くの道の駅に農産物を見にいたり、役場や図書館、映画会など積極的に活用し外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵を掛けずに入居者の自由な暮らしを支援している。玄関にチャイムを取り付け、入居者の動きに注意をはらい声掛けや見守りをして安全に配慮している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度、地元の消防団、消防署と避難訓練を行っているが、交番との連携は行っていない。非常災害時の食品等の備蓄はしていない。	○	地震などの災害時マニュアルの整備、緊急時災害時連絡体制の周知、災害時の備蓄をお願いしたい。平素より近隣の住民や交番との連携を図り、被災時の避難場所の周知など入居者の安全に対する配慮をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食の好みや嚥下状態を東京センター方式で情報収集している。3日分の献立を立て、栄養バランスを摂れるように工夫している。水分摂取は疾患に応じて計画を立てており、特に水分制限の指示がない場合一日1000ml摂取できるように介護を行っている。体重測定は月に二度行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅街にあるため近隣からの不快な騒音はない。加湿器を設置し、空調を管理している。台所での食事の準備や後片付けの音、生活臭も気にならず、入居者はゆったりとしたソファに座り気持ちよさそうにくつろいだり、畳の間のこたつのあるスペースで談笑している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の生活習慣に合わせた居室作りを行い、馴染みの物や位牌、家族の写真等を置き、居心地の良い部屋になっている。		